

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	骨盤内臓器のラマン分光法を用いた研究
	研究目的	現在、癌組織だけではなく、血管や神経、腸管やリンパ管といった生体の組織も含め、組織を正確に鑑別するためには病理学的診断が必要です。しかしながら、その診断には時間を要します。本研究は、手術検体とラマン分光法という手技を用いて、各組織を把握するためのラマンスペクトルを取得し、そのデータを用いて瞬時に組織を同定できないか調べる研究です。もし手術中に組織を迅速に認識できれば、切除すべき組織、温存すべき組織をその場で区別することが可能になると考えます。
	研究対象者	2019年7月3日～2021年3月31日までに、骨盤内の大腸癌の手術が実施された患者
	研究期間	西暦 2019年7月3日～西暦 2021年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	神奈川県立がんセンター 消化器外科 医長 佐藤 純人
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	神奈川県立がんセンター 消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし